



ももこの今月のお勧め



分間アップデート

アップデートはどこで確認できますか？

<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/tag/週刊aws/>

<https://aws.amazon.com/jp/new/>



Amazon Web Services ブログ
Tag: 週刊AWS

週刊AWS - 2021/2/15週
 by Masato Kobayashi | on 22 FEB 2021 | in General | Permalink | Share
 みなさん、こんにちは。AWSソリューションアーキテクトの小林です。先週のアップデートを振り返っていきましょう。

週刊AWS - 2021/2/8週
 by Akira Shimosako | on 15 FEB 2021 | in General | Permalink | Share
 みなさん、こんにちは。ソリューションアーキテクトの下佐粉です。今週も週刊AWSをお届けします。エンジニアのための施設AWS Loft Tokyoは現在休館中ですが、Loftで実施していた対面式の技術相談コーナーであるAsk an Expertが、現在はオンラインで参加いただけるようになっています。そして、今週初の試みとしては2/19(金)にDB、分析、コンテナのエキスパートが終日相談に応じるSpecial Expert Dayを実施する事になりました。私は13時、14時、15時台に当番しておりますので、データレイクやDWH on クラウドで相談したいことがありましたら、ぜひこちらの案内に従ってご参加ください。(なお利用にはAWS Loft Appが必要です。まだ登録されていない場合、利用登録には約5営業日程度かかりますのでご注意ください) それでは、先週の主なアップデートについて振り返っていきましょう。

週刊AWS - 2021/2/1週
 by Masato Kobayashi | on 08 FEB 2021 | in General | Permalink | Share
 みなさん、こんにちは。AWSソリューションアーキテクトの小林です。秋ぐらいに健康作りのために運動を始めました、というポストをしました。自分自身の今までの傾向としては、2ヶ月くらいでブームが過ぎ去って飽きてしまうパターンが多かったのですが、今回はなんとか継続することができています。今回継続できている理由は、モニタリングをしっかりやっていることなのかな、となんとなく思っています。Bluetoothでデータを吸い上げアプリで可視化できる体組成計と血圧計を購入し、毎日データを取るようになりました。また、フィットネストラッカーを利用して運動量をトラッキングしています。これらによって日々の状況を把握し、運動量が不足しているなら素早くアクションをとることができます。常日頃からのモニタリングと可視化が大事なんだな、という実感を得ている今日この頃です。

週刊AWS - 2021/1/25週
 by Akira Shimosako | on 01 FEB 2021 | in General | Permalink | Share
 みなさん、こんにちは。ソリューションアーキテクトの下佐粉です。今週も週刊AWSをお届けします。すっかり寒くなりましたね。私の場合ずっと在宅勤務なので季節を感じる機会が少なくなっているのです



AWS の最新情報

AWS は、お客様が最新のテクノロジーを利用して実験し、より迅速に革新できるように、新しい機能を絶えず追加しています。最新情報記事は、AWS がそれをどのように実現しているかをお伝えするもので、AWS のすべてのサービス、機能、およびリージョンの拡大発表がリリースされるたびに、それらの概要を提供します。

AWS 最新のイノベーションについては、以下のページをご覧ください。

RSS フィードで購読する | 2021年の発表をすべて表示する

注目の発表 | 最近の動画 | すべての発表 | その他の資料

aws INNOVATE AI / 機械学習の最新情報や導入事例、ベストプラクティスを AWS のエキスパートが解説
 2/24 (水) オンラインで無料開催！相談コーナーもご用意。 [詳細を見る >](#)

今週注目発表

<p>AMAZON CLOUDFRONT SECURITY SAVINGS BUNDLE のご紹介</p> <p>本日、Amazon CloudFront Security Savings Bundle を発表します。これは、1年間にわたって月間最低使用量を確約いただくことと引き換えに、CloudFront の請求額を最大 30% 節約できる柔軟なセルフサービスの料金プランです。</p> <p>2021年2月5日</p>	<p>AMAZON VIRTUAL PRIVATE CLOUD (VPC) で ELASTIC IP アドレスのリバース DNS のカスタマイズが可能に</p> <p>Amazon Virtual Private Cloud (VPC) では、Elastic IP (EIP) アドレスのリバースドメインネームシステム (DNS) ルックアップを簡単にセットアップして、Eメールの配信性を向上させることができます。</p> <p>2021年2月3日</p>	<p>AMAZON S3 で AWS PRIVATELINK のサポートを開始</p> <p>Amazon S3 は AWS PrivateLink のサポートの提供を開始し、仮想プライベートネットワーク内のプライベートエンドポイントを通じて S3 に直接アクセスできるようになりました。</p> <p>2021年2月2日</p>
---	---	--

参考ページ

「Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションがダウンタイムなしのパッチ適用に対応しました」

<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2022/06/amazon-aurora-postgresql-compatible-edition-supports-zero-downtime-patching/>

公式ドキュメント: Minor release upgrades and zero-downtime patching

※本日時点で英語のみ

https://docs.aws.amazon.com/AmazonRDS/latest/AuroraUserGuide/USER_UpgradeDBInstance.PostgreSQL.html

Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションがダウンタイムなしのパッチ適用に対応しました

投稿日: Jun 10, 2022

Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションが、ダウンタイムなしのパッチ適用 (ZDP) に対応しました。ZDP により、新しいバージョンの PostgreSQL へのアップグレードや Aurora クラスターへのパッチ適用をダウンタイムなしで行えるようになります。

ZDP では、データベースエンジンの再起動中もクライアントとの接続が保たれます。この機能により、ビジネスの継続性を維持しながら、これまでより頻繁にクラスターを PostgreSQL の最新マイナーバージョンにアップグレードすることが可能になります。ZDP はデータベースのマイナーバージョンのアップグレードおよびパッチ適用を行う際、対象のデータベースバージョンが実行されているすべてのリージョンの Aurora クラスターで機能します。詳細については、[Aurora のドキュメント](#)をご覧ください。

Amazon Aurora は、MySQL および PostgreSQL との完全な互換性を確保し、圧倒的な高パフォーマンスおよび可用性をグローバル規模で実現するよう設計されています。組み込みのセキュリティ、継続的なバックアップ、サーバーレスコンピューティング、最大 15 のリードレプリカ、自動化されたマルチリージョンレプリケーション、および AWS の他のサービスとの統合をお使いいただけます。

Amazon Aurora の使用を開始するには、[開始方法のページ](#)をご覧ください。

参考ページ

「AWS Security Hub が AWS Config のマネージドルールとカスタムルールの評価結果を受け取るようになりました」

<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2022/06/aws-security-hub-config-managed-custom-rule-evaluation-results/>

公式ドキュメント:AWS Config (Sends findings) ※本日時点で英語のみ

<https://docs.aws.amazon.com/securityhub/latest/userguide/securityhub-internal-providers.html#integration-config>

AWS Security Hub が AWS Config のマネージドルールとカスタムルールの評価結果を受け取るようになりました

投稿日: Jun 7, 2022

AWS Security Hub は、AWS Config のマネージドルールとカスタムルールの評価結果をセキュリティの検出結果として自動的に受け取るようになりました。AWS Config を使用すると、セキュリティとコンプライアンスの専門家は、指定されたポリシーに照らして AWS リソースのコンプライアンスを評価する Config ルールを介して、AWS リソースの設定を評価および監査できます。Config ルールによって検出されたリソースの設定ミスの例には、パブリックにアクセス可能な Amazon S3 バケット、暗号化されていない EBS ボリューム、および過度に許容的な IAM ポリシーが含まれます。Config ルールの評価が合格または不合格になると、Security Hub でその評価の「合格」または「不合格」の検出結果が表示されるようになりました。Config ルールの評価のステータスの更新は、Security Hub の検出結果で自動的に更新されます。Security Hub と AWS Config のこの新しい統合により、Config 評価結果を他のセキュリティの検出結果と統合することで、一元化および単一ウィンドウのエクスペリエンスが拡張され、セキュリティの検出結果をより簡単に検索、トリージ、調査し、これらの検出結果に対してアクションを実行できるようになります。

グローバルに利用可能な AWS Security Hub では、AWS アカウント全体のセキュリティ体制を包括的に確認できます。Security Hub により、複数の AWS のサービス (Amazon GuardDuty、Amazon Inspector、Amazon Macie、AWS Firewall Manager、AWS IAM Access Analyzer など) ならびに 65 を超える AWS パートナーネットワーク (APN) のソリューションにおけるセキュリティアラートまたは検出結果を、一元的に集約、整理、優先順位付けできるようになりました。また、AWS Foundational Security Best Practices、CIS AWS Foundations Benchmark および PCI DSS (Payment Card Industry Data Security Standard) などに基づく、自動化されたセキュリティチェックを使用して、環境を継続的にモニタリングすることもできます。Amazon CloudWatch Event ルールを使用して、Amazon Detective で調査することにより、チケット管理、チャット、セキュリティ情報およびイベント管理 (SIEM)、セキュリティオーケストレーションの自動化と対応 (SOAR)、インシデント管理ツール、またはカスタム修正プレイブックに検出結果を送信することで、これらのセキュリティやコンプライアンスに関する検出結果に対しアクションを起こすことができます。

AWS マネジメントコンソールを使用すると、ワンクリックで AWS Security Hub の 30 日間の無料トライアルを有効にできます。AWS Security Hub が利用できる全リージョンについては、[AWS リージョンページ](#)を参照してください。AWS Security Hub の機能の詳細については、AWS Security Hub の[ドキュメント](#)を参照してください。また、30 日間の無料トライアルを開始するには、AWS Security Hub の[無料トライアルページ](#)を参照してください。

参考ページ

「Amazon Route 53 が DNS クエリの IP ベースのルーティングを発表」
<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2022/06/amazon-route-53-ip-based-routing-dns-queries/>

公式Blog 「Introducing IP-based routing for Amazon Route 53」
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/networking-and-content-delivery/introducing-ip-based-routing-for-amazon-route-53/>

Amazon Route 53 が DNS クエリの IP ベースのルーティングを発表

投稿日: Jun 1, 2022

本日、AWS は、AWS のドメインネームシステム (DNS) クラウドサービスである Amazon Route 53 の IP ベースのルーティングのリリースを発表しました。Route 53 は、エンドユーザーを最適なエンドポイントにルーティングするために、位置情報ルーティング、地理的近接性ルーティング、レイテンシーベースのルーティング、重み付けルーティングなどの複数のルーティングオプションをお客様に提供します。IP ベースのルーティングが追加されたことにより、お客様は、クエリ元の IP アドレスが属する Classless Inter-Domain Routing (CIDR) ブロックに基づいて、DNS ルーティングアプローチを微調整できるようになりました。これにより、お客様は、パフォーマンスまたはネットワークトランジットコストを最適化するためのエンドユーザーベースの知識を活用できるようになりました。

例えば、特定のインターネットサービスプロバイダー (ISP) ネットワーク内のエンドユーザーを、コンテンツ配信ネットワーク (CDN) などの特定のエンドポイントにルーティングできるようになりました。これらの ISP から CDN へのマッピングは、お客様ごとに一意であり、CDN とのビジネス契約やパートナー ISP のネットワークポロジなどの要因に基づいている場合があります。独自の分析に基づいてルーティング決定マップを開発済みであり、それらを Route 53 に総合的に適用したいお客様は、IP アドレスプレフィックス (CIDR ブロック) を Route 53 にアップロードし、CIDR コレクションと呼ばれる再利用可能なエンティティにグループ化し、これらのコレクションを 1 つ以上の Resource Record Sets (RRSets) に関連付けることができるようになりました。特定のオーバーライドのために IP ベースのルーティングを選択的に利用したいお客様のために、IP ベースのルーティングを位置情報ルーティングなどの既存のルーティングタイプと組み合わせて使用することもできます。

Route 53 の IP ベースのルーティングは、すべての AWS 商用リージョンと AWS 中国で一般提供が開始されました。この機能の使用方法については、Route 53 ドキュメントの「[ルーティングポリシーの選択](#)」と [AWS ネットワーキングとコンテンツ配信ブログ](#) の IP ベースのルーティングに関する発表をご覧ください。料金の詳細については、Route 53 の [料金ページ](#) にアクセスしてください。

Amazon Personalize が 6 つの新しい言語で非構造化テキストのサポートを追加

投稿日: Jun 6, 2022

Amazon Personalize は、スペイン語、ドイツ語、フランス語、ポルトガル語、中国語 (簡体字および繁体字)、日本語の 6 つの新しい言語で非構造化テキストをサポートするよう拡張しました。Amazon Personalize により、デベロッパーは、パーソナライズされた製品とコンテンツレコメンデーションを通じて、カスタマーエンゲージメントを向上させることができます。機械学習の専門知識は必要ありません。昨年、Amazon Personalize は英語の非構造化テキストのサポートを開始しました。これにより、お客様は、製品の説明、レビュー、映画のあらすじ、または他の非構造化テキストに存在する情報を活用して、ユーザーのために関連性の高いレコメンデーションを生成できます。Amazon Personalize は、このサポートを 6 つの新しい言語の非構造化テキストに拡張しました。これにより、グローバルカタログをご利用のお客様がこの機能を使用できるようになりました。お客様がカタログの一部として非構造化テキストを提供すると、Amazon Personalize が最先端の自然言語処理 (NLP) 技術を活用してアイテムに関する重要な情報を自動的に抽出し、ユーザーのためにレコメンデーションを生成する際に利用します。

Amazon Personalize を使用すると、Amazon で使用されているのと同じ機械学習テクノロジーを使用して、事前の機械学習の経験が必要とせずに、ウェブサイト、アプリケーション、広告、E メールなどをパーソナライズできます。Amazon Personalize の使用を開始するには、[ドキュメント](#)にアクセスしてください。

参考ページ

「Amazon Personalize が 6 つの新しい言語で非構造化テキストのサポートを追加」

<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2022/06/amazon-personalize-support-unstructured-text-six-new-languages/>

参考ページ

「Amazon EMR Serverless が一般公開されました」

<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2022/06/amazon-aurora-postgresql-compatible-edition-supports-zero-downtime-patching/>

公式Blog:Amazon EMR Serverless Now Generally Available – Run Big Data Applications without Managing Servers

<https://aws.amazon.com/jp/blogs/aws/amazon-emr-serverless-now-generally-available-run-big-data-applications-without-managing-servers/>

公式ドキュメント

https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/emr/latest/EMR-Serverless-UserGuide/emr-serverless.html

Amazon EMR Serverless が一般公開されました

投稿日: Jun 1, 2022

Amazon EMR の新しいサーバーレスデプロイオプションである Amazon EMR Serverlessが一般提供されたことをお知らせします。これにより、データエンジニアやアナリストは、ペタバイト規模のデータ分析をクラウド上で簡単かつ低コストで実行できるようになります。Amazon EMR は、Apache Spark、Apache Hive、Presto などのオープンソース解析フレームワークをベースにした、大規模な分散データ処理ジョブ、インタラクティブ SQL クエリ、機械学習 (ML) アプリケーションを実行できるビッグデータソリューションです。EMR Serverlessでは、クラスターを構成、最適化、チューニング、管理することなく Spark および Hive のアプリケーションを実行することができます。

EMR Serverlessは、きめ細かい自動スケーリングを提供し、アプリケーションが必要とするコンピューティングとメモリのリソースをプロビジョニングして迅速にスケーリングします。例えば、Spark のジョブで、最初の 5 分間は 2 個、次の 10 分間は 10 個、最後の 20 分間は 5 個のエグゼキューターが必要な場合、EMR Serverless は必要に応じて自動的にリソースを提供し、ユーザーは使用したリソース分だけ料金を支払えばいいのです。また、EMR Serverless は、パフォーマンスに最適化された EMR ランタイムを搭載しているため、ジョブを高速で実行することができます。さらに、EMR Serverless は EMR Studio と統合されており、実行中のジョブのステータス確認、ジョブ履歴の確認、使い慣れたオープンソースツールを使用してジョブのデバッグなどの包括的なツールを提供します。

Amazon EMR Serverlessは通常、次の 4 つのリージョンで利用できます：米国東部 (バージニア北部)、米国西部 (オレゴン)、アジアパシフィック (東京)、欧州 (アイルランド)。

EMR Serverlessの [ブログ記事](#) はこちら、詳細は [EMR Serverlessのドキュメント](#) をご参照ください。

第二十回 「アップデート紹介 とちょっぴり Dive Deep する AWS の時間」

2022年7月28日 (木) 16:00 - 18:00 オンライン開催 (ライブ)

データアナリティクス編 7/28 (木) 16:00~18:00

お申し込みページはこちら

<https://pages.awscloud.com/APAC-field-OE-JP-ISV-CH-DD-20220728-reg-event.html>





Thank you!